

「Unit 8 イギリスの本」

本単元で育成する資質・能力

表現力, 共感力, つながる知識, 主体性・積極性, 深く考えようとする姿勢

単元について

○単元観

本単元は、インターネット電話を利用して海外にいる知り合いの人と英語で対話するという内容である。ICT機器を活用することにより、世界中に向けて自分たちから情報を発信したり、交流したりすることは決して「夢物語」ではなく現実に実行できることを意識させることが可能であり、このことが生徒の英語学習意欲を喚起することにつながるができる。

言語材料としては、Where ~? , Whose ~? , 代名詞の目的格を含む文が扱われている。したがって、情報を相手から聞き出したり、聞き出した内容を基に会話を広げたりすることについて教科書を通して学び、実際に英語でお互いの趣味に関わる人物についての情報を尋ねたり伝えたりする力を養う。

○生徒観

この学年の生徒は入学当初、8割以上の生徒が英語に対し苦手意識を持っていたため、それを克服するため、スモールステップを意識し、英語に興味を抱くようなアクティビティや教え合い学習ができるようペアワークを行ってきた。その結果、生徒アンケートより、「英語が楽しい」の項目に対しての肯定的評価は93.0%と概ね苦手意識は克服し、前向きに取り組む生徒が増えた。しかし、2学期中間テストの「4文以上のつながりのある自己紹介文を書きなさい。ただし、一般動詞を必ず一つは使うこと」という問題において、正答率は33.3%にとどまった。誤答例として多かったものの順に、文と文のつながりを意識できていない、スペルミス、ピリオッド忘れ、英語の語順が定着していないなどがあった。

○指導観

本単元では、つながりを意識したまとまりのある英文を書かせるために、パフォーマンス課題として「ペアで協力して、インターネット上のやりとりのスキットを作ろう」というライティング活動を設定している。その達成に向けて、以下の7点について指導の工夫を行う。

- ①円滑なペアワークが行えるよう、毎時間ペアワークを取り入れる
- ②教科書にある参考になりそうな表現が使えるよう、登場人物になりきってペアーディングさせる
- ③疑問詞を使いこなせるよう、実際の物を使ってアクティビティを行う
- ④実際の言語使用場面とつながり、生徒の活動意欲が高まるような場面設定を行う
- ⑤あらゆる場面において、「誰が」「どうする」「何を」という英語の語順を意識させる
- ⑥生徒が書いた英文をペアで相互チェックさせることで、つまづきやすいポイントやピリオッド忘れなどのケアレスミスに注意を向けさせる
- ⑦スペルミスを減らすために、フォニックス指導により、音と綴りのつながりを意識させる

単元の目標

- (1) 既習事項を用いて、インターネット電話上で自分の好きなものや人について紹介したり、相手に質問したりするスキットを作る。
- (2) ペアで協力して、間違いを恐れず積極的に書く。
- (3) 疑問詞 where, whose を用いた文の構造を理解する。
- (4) 代名詞の目的格の用法を理解する。

単元の評価規準

ア コミュニケーション への関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
①ペアで協力して、間違いを恐れず積極的に書いている。	①既習事項を用いて、インターネット電話上で自分の好きなものや人について紹介したり、相手に質問したりするスキットを作ることができる。	/	①疑問詞 where を用いた文の構造を理解している。 ②疑問詞 whose を用いた文の構造を理解している。 ③代名詞の目的格の用法を理解している。

資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力				評価の観点			
				関	表	理	知
知識	つながる知識	知	①「既習事項とのつながり」のある知識 ②「他教科・領域とのつながり」のある知識 ③「地域・社会とのつながり」を意識した知識 ④これらが整理され、「将来へ活用できる」ことを実感できる知識	○	○	○	○
スキル	思考力 判断力 表現力	表	①比較し、関連付けて物事を考える力 ②目的に応じて根拠をもとに判断できる力 ③思考・判断に至った過程を振り返り、整合性等を検討する力 ④自分の考えを相手に納得できるよう、わかりやすく伝える力	○	○	○	○
意欲 態度	主体性・積極性	主	①自ら課題を見つけ、よりよく解決しようとする ②自ら進んで、前向きに取り組もうとする	○	○	○	○
価値観 倫理観	深く考えようとする 姿勢	深	「竹む」(たたずむ)こと、「はっと気づく」こと ①広い視野と細かな配慮を持って物事を捉えようとする ②課題解決過程を振り返り、整合性や限界性を検討しようとする ③表面に見えていないものを感じ取り、深く思考しようとする ④創造的な思考を働かせ、新たな価値を発見・創造しようとする	○	○	○	○
	共感力 優しさ・思いやり ・助け合いの心	優	こだまし、うなづくこと ①他者意見を真摯に聴き、受け止め、相手目線で考えようとする ②自己肯定感を持った上で、他者との違いを肯定的に捉えようとする ③関わり合いを通して、優しさ、思いやり、感謝の心を持って行動しようとする ④仲間と協働し、ともに高まろうとする	○	○	○	○

単元として育てたい資質・能力のつながり

<ul style="list-style-type: none"> ・つながりを意識して、分かりやすく、まとまりのあるスキットを作ることができる。(表現力) ・ペアで協力して、ともに高まろうとする。(共感力) ・既習事項を用いて、自分の伝えたい事を伝えることができる。(つながる知識) ・自ら進んで、前向きに取り組もうとする。(主体性・積極性) ・他のペアのスキット発表を聞いて、良さを見つけ、自分たちの今後のスキットの改善に生かそうとする。(深く考えようとする姿勢)
--

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
<p>「ペアで協力して、インターネット電話上のやりとりのスキットを作ろう！」</p> <p>オーストラリアのメルボルンにある姉妹校の中学生とインターネット電話がつながっています。その生徒とは以前も何度かやりとりをしたこともあり、お互いに面識はあるのですが、今日は自分の興味のあることなどを紹介したり、質問し合ったりしながら、より仲良くなりましょう。どんなやりとりをすれば、より仲良くなれるかをペアで協力して考え、そのスキットを書いてください。</p> <p>条件として、5ターン以上のやりとりであること、疑問詞を必ず使うこと。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の表現を用いて、スキットを書いており、英語表現としても適切である。 ・読み手に正しく伝わるよう、文と文のつながりなどに注意して文章を書いている。 ・辞書を使うなど、ペアで協力して条件以上の文量を積極的に書いている。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の表現を用いて、スキットを書いているが、英語表現として内容理解に差し障りがない程度の間違がある。 ・辞書を使うなど、ペアで協力して積極的に書いている。
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の表現を用いて、スキットを書いているが、語順等内容理解にさし障りのある間違いが複数ある。 ・辞書の活用やペアでの協力が不十分であり、条件の文量を満たしていない。

【スキット例】

A: Hi, B. How are you?

B: Hi, A. I'm fine. Thank you. And you?

A: I'm fine, too. Thank you. Look at this picture. Do you know this man?

B: No, I don't. Who is he?

A: He is Gen Hoshino. He is a famous singer in Japan.

I like him. I like Mariah, too. Do you know about Mariah?

B: Mariah? Who is Mariah?

A: She is from America. She is a singer, too.

B: Oh, that's Mariah Carey. I know her. She sings really well. I like "Hero".

A: I like the song, too. It is a good song.

Who is your favorite singer?

B: My favorite singer is Sia. She is a famous singer in Australia.

A: Oh, I know Sia. She is a great singer!

B: Yes. I often listen to her songs.

A: I see. Thank you. Goodbye.

B: Bye.

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価				
			関	表	理	知	
1	課題設定・情報の収集	<p>○本単元の目標とパフォーマンス課題を確認し学習の見通しを持つ。</p> <p>○本単元で身に付ける文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞 where を用いた英文の用法を理解する。 ・教科書の登場人物になりきって、探し物がどこにあるのかというやりとりのペアリーディングを行う。 			◎	<p>エー① (後日ペーパーテスト)</p>	<p>◇資質・能力育成場面【資質・能力】</p> <p>◆資質・能力評価場面【資質・能力】(評価方法)</p> <p>◇既習事項を用いて、自分の伝えたい事を伝えさせる [知-①]</p> <p>◇つながりを意識して、分かりやすく、まとまりのあるスキットを作らせる [表-④]</p> <p>◇スモールステップで着実に力をつけさせ、生徒の活動意欲が湧くような場面設定の工夫により、自ら進んで、前向きに取り組む姿勢を育てる [主-②]</p> <p>◇他のペアのスキット発表を聞いて、良さを見つけ、自分たちの今後のスキットの改善に生かそうとする [深-②]</p> <p>◇ペアワークやグループワークを多く取り入れ、仲間と協働し、ともに高まろうとする場を設定する [優-④]</p>
2 (本時)	整理・分析	<p>○持ち物などがどこにあるかをたずねたり、答えたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで異なる部屋の絵を持ち、何があるのか質問し合いながら、相手の部屋の中の配置図を当てる。 			◎	<p>エー① (後日ペーパーテスト)</p>	
3	情報の収集	<p>○本単元で身に付ける文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・whose を用いた英文の用法を理解する。 ・グループで各自教科書とペンを準備し、それらが誰のものか質問し合う。 			◎	<p>エー② (後日ペーパーテスト)</p>	
4	整理・分析	<p>○自分のお気に入りの本を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで、教科書の本文を参考にお気に入りの本を紹介する。 			◎	<p>エー② (後日ペーパーテスト)</p>	

5	情報の収集	<p>○本単元で身に付ける文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代名詞の目的格の用法を理解する。 ・教科書の登場人物になりきって、おすすめの本や作家についてのペアリーディングを行う。 				◎ エー③ (後日ペーパーテスト)	
6	整理・分析	<p>○他の人について、「彼を」「彼女を」などと言い換えながら対話を続けることができる。</p>				◎ エー② (後日ペーパーテスト)	
7	創造・表現 まとめ	<p>○インターネット電話上で自分の好きなものや人について紹介したり、相手に質問したりするスキットを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Unit 8で行った活動や、教科書本文などを参考にペアで協力してスキットを作る。 	○	◎		イー① (ワークシートチェック) アー① (活動の観察)	
8	実行・振り返り	<p>○作ったスキットを発表する。</p> <p>○筆記テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞 where, whose, 代名詞の目的格についての理解をみる問題 				◎ エー①, ②, ③ (ペーパーテスト)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ [知一①] (行動観察) (ワークシート) ◆ [表一④] (ワークシート) ◆ [主一②] (行動観察) ◆ [深一②] (振り返りシート) [優一④] (行動観察)

本時の学習

- (1) 本時の目標：Where の用法を理解し，相手の部屋の中の物がどこにあるのかをたずねることができる。
- (2) 準備物：ワークシート
- (3) 学習展開（2限目/8）

整理・分析

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○Greeting, Q&A ○Word Input (英単語) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>【ねらい】 友達の部屋の中のものがどこにあるのかたずねてみよう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を学習する雰囲気を作れるよう，テンポ良く行う。 ・前回の自分の点数を参考に各自目標点を書かせる。 ・ペアで向かい合って問題を出し合わせる。 	
展開 (34分)	<ul style="list-style-type: none"> ○Review ○Sentence Input (基本文) ○Textbook P.85 <ul style="list-style-type: none"> ・基本練習 ・Tool Box ・Listen ○Activity <ul style="list-style-type: none"> ・ペアでお互いの部屋の中の物の配置をたずね合う <p>A: Do you have a guitar in your room? B: Yes, I do. 【No, I don't.】 A: Where is it? B: It's by the desk.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取った情報をもとに，ワークシートの部屋の絵にその品物を並べていく。全て並べたら，絵を見せ合いながら答え合わせをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確認をする。 ・基本文を読んで，形に慣れさせる。 ・基本文を書かせる。 ・ペアで教科書の基本練習を行わせる。 ・教科書の部屋の配置図に関する聞き取り問題を行い，次の Activity に対する見通しを持たせる。 ・「オーストラリアに留学中で，寮に入っており，同じ部屋の間取りの友達に部屋の中の物がどこにおいてあるのかをたずね，自分の部屋の片付けの参考にする」という設定で行う。 ※前時で自分の部屋の中の物がどこにあるのかをワークシートに記入する宿題を出しておく。 	疑問詞 where を用いた文の構造を理解している エー① (後日ペーパーテスト)
まとめ (6分)	<ul style="list-style-type: none"> ○Writing ○振り返りシート ○宿題の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの最後に Where を用いた疑問文とその答えの文を書かせる。 ・ペアでお互い書いた英文をチェックさせ，間違いがあれば書き直させる。 ・全体で答えを確認する。 ・振り返りシートを使って，振り返りを書かせ，全体で交流する。 	